彼方小だより

児童数配布
富田林市立彼方小学校
令和 4 年 10 月号

「その先にあるもの」

校長　藤井　貞彦

２学期がスタートして早くも１ヶ月が過ぎました。ここにきてようやく暑さも落ち着いて、秋の訪れを実感するようになりました。

先月は複数の台風が日本に接近し、各地に大きな被害をもたらしました。本校の校区にも洪水や土砂災害の危険箇所が複数あります。普段からの備えを怠らず、今後も安全・安心な学校をめざして、努力を続けていかなければならないと強く感じました。

先日のことです。子どもたちの登校時間に急に雨が降り出しました。短時間で小やみになったのですが、何人かはびしょ濡れで登校してきました。学校に着いてすぐに体操服に着替えるなどして対応できました。幸い事故やケガにはつながらず、安心しました。そんな中、見守りの方がカサを貸してくださったり、子どもたちのためにカサを調達しようしてくださったりしていたことが分かりました。地域の皆さんの温かさを実感して、本当にありがたい気持ちで一杯になりました。（これからもよろしくお願いします。）

以前にも、下校時に小雨が降り出した時がありました。

その時、カサを持っているのにささずに帰ろうとしている子どもとこんなやりとりをしました。

「雨が降ってるのに、なんでカサささへんのかな？」

『だってめんどくさいし、ちょっとやから大丈夫やん。』

「でも、濡れてカゼひいたり、体調くずしたりしたらしんどいで。」

『カゼひいてしんどいのは自分やから、ええやん。』

「ホンマにそうかな？　しんどくなったら誰が面倒見てくれるんかな？」

『家族・・・』　「そしたら、しんどいのは自分ひとりとちゃうやん」　『そうやな～』

「それに、カゼひいて誰かにうつしてしもたらどうする？」

『うん、カゼひかんように気ぃつけるわ。』と、その子はカサをさして帰りました。

自分のしていることが、周りにどんな影響を与えているのか、大人なら少し考えればわかることです。でも、小学生（特に低学年）にはなかなか難しいことで、成長するにつれて少しずつ周りを意識できるようになるものです。子どもたちの気づきや成長を促すためには、われわれ大人が適切な場面をとらえて、丁寧に問いかけることが大切だと思います。一方的に指図するのではなく、子どもたちに考えさせ気づかせることです。自分で考えて導き出したことは、自分の物になります。学校では子どもたちの発達段階に合わせて丁寧に指導を進めています。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いします。

また別の雨の日、彼が友だちに『雨にぬれてカゼひいたらみんなに迷惑かかるから、ちゃんとカサさして帰ろな！』と自慢げに話していました。

そして、私と目が合った瞬間『そうやんな、校長先生！』とでも言うかのように、にっこりと笑いました。